

旧第11通学区 高等学校教育懇話会 第3回会議 会議録

日時：令和3年3月16日（火）

午前10時～午後0時10分

場所：安曇野市役所4階大会議室

◎開 会

○司会 皆様、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから旧第11通学区高等学校教育懇話会第3回会議を開会いたします。

私は、本日の進行を務めます共同事務局の安曇野市教育委員会教育部長の平林と申します。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、お手元の資料のご確認をお願いいたします。

式次第の表紙にとじたものが1部、それから、資料1、資料3、4をとじたものを1部、各研究部会からの報告、これは資料2になりますけれども、これが1部、旧第11通学区高等学校資料、資料5でございますけれども、これも1部ご用意をさせていただきました。

皆様、よろしいでしょうか。

◎あいさつ

○事務局 それでは、まず初めに、荒井座長よりご挨拶をお願いいたします。

○座長 皆さん、おはようございます。

信州大学の荒井でございます。

ご多忙な中、今日はお集まりいただきありがとうございます。第3回会議ということで、今日のメインは、これまで様々な議論を研究部会というような形でそれぞれの地区でやってきましたので、そこでのご報告をしていただきながら論議を深めていけたらと思っております。

短い時間ではありますが、よろしく願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

続きまして、県教育委員会からご挨拶をお願いいたします。

○県教育委員会 皆様、こんにちは。

長野県教育委員会高校教育課高校再編推進部長の駒瀬隆でございます。

本日は、年度末のお忙しい中、松本の臥雲市長をはじめ、構成員の皆様方には第3回の11

通学区懇話会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

昨年10月16日に第2回の会議以来の懇話会でございます。この間、複数回の研究部会を開催いただき、さらに各地区で独自で、地域の高等学校の授業を見学、生徒や先生方と直接お話を聞き取っていただくなどご尽力いただきました。重ねてお礼申し上げます。

特に地元の市町村の教育委員会におかれましてはご負担をかけたのではないかと考えておりますが、今回は地元の高等学校関係者と市町村教育委員会が新たな接点を持っていたことが、開かれた学校、地域との協働連携という点で高校にとって非常に大きな意味があったのではないかと考えております。今後とも引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

さらに、先週11日に、隣接する12通学区と研究部会Ⅲとの合同部会、安曇野と大北地域の高等学校を考える合同部会を開催していただきました。様々なご意見がございましたが、将来に向けて意味のある会にしなければという構成員の皆様方の大きな熱意を感じたところでございます。懇話会は長期間の長丁場になって恐縮ではございますが、今後ともご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

最後になりますが、年度がわりの役職の変更によって今回で最後となる方もいらっしゃると思っております。殊に松本市の赤羽教育長様におかれましては、この会の発足からご尽力いただき、また、懇話会副座長として会をおまとめいただきましたことに対しまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

本日の会議、忌憚のないご意見等々聞かせていただきながら、今後に向けて対応してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

◎新構成員の紹介

○司会 続きまして、新しい構成員の方をご紹介申し上げます。

本年1月末付で筑北村教育長、宮下敏彦様が退任をされ、後任に滝澤昭文様が就任なされました。滝澤様、恐れ入りますが、一言ご挨拶をお願いいたします。

○筑北村教育長 この2月1日より教育長を務めます筑北村教育委員会、滝澤昭文と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○司会 ありがとうございます。

次に、本日の欠席された方のご報告をさせていただきます。

藤澤生坂村長様、それから、飯森麻績村教育長様、樋口生坂村教育長様、百瀬朝日村教育長様、千國JAあづみ組合長様、それから、高橋秀生安曇野市商工会長様、東筑摩塩尻PTA連合会会長、渡邊様、藤田松本中学校校長会長様、小林東筑摩塩尻中学校校長会長様、内川安曇野市中学校校長会長様、杉村松本県ケ丘高等学校長、保坂豊科高等学校長さんでございます。この他にはお2人からご連絡はございませんけれども、よろしく願いいたします。

それから、代理出席といたしまして、JA松本ハイランドの代表理事組合長、伊藤様に代わりまして、副組合長の横内様にご出席をいただいております。

それでは、会議事項に移りたいと思います。

開催要綱2の3号によりまして、座長に進行をお願いしております。

座長、副座長さんは、席をお移りください。

それでは、これ以降、荒井座長よりお願いいたします。

◎協議議案

○座長 それでは、進行のほうを務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

まず、会議の次第をご覧いただけたらと思っております。

会議事項の(1)から、事務局からの報告ということで、資料1に関してですけれども、説明をお願いいたします。

○事務局 県教育委員会事務局、上原でございます。

資料につきましてご説明させていただきます。

まず、資料1をご覧ください。

全県の地域の協議会の進捗状況でございます。旧第1、第6、第8、第9通学区につきましては、再編・整備計画として確定済みでございます。

続きまして、今年度協議が終了しました、第2、第5、第10、第8区、8区は調整済みでございますが、この3月に再編・整備計画【二次】案を公表させていただく予定です。

残りの第3、第7通学区は、今般審議が終了し、近々、意見・提案書をご提出いただく予定になっております。

第4通学区と第11と第12通学区は検討中、このような状況です。

続きまして、おめくりいただきまして、裏面をご覧ください。

第2回懇話会でご質問、ご意見を頂戴した件につきましてお願いいたします。

いずれも宮澤安曇野市長様からのご質問でございます。

まず、代理出席につきましては、記載のとおりお願いしたいと存じます。

続けて、県議会における寺沢議員の質問内容についてでございます。

昨年9月議会におきまして寺沢議員より、地域協議会の議論終了後は、協議会メンバーに地域の高校を加え、引き続き学校づくりについての議論を行ってほしいと考えるがいかがかというご質問だったかと思えます。原山教育長が、協議会終了後の在り方についても引き続き研究してまいると返答しておりまして、資料記載のとおりご回答申し上げます。

最後に、公私立の高校の関係に関する資料としまして、昨年2月、長野県公私立高等学校の在り方懇談会報告書のまとめを枠囲いとしてお示ししてございます。

この中で、公私協調の新たな取組の(3)の三つ目のポツで、公私比率に関して新たな仕組みを導入するかとございまして、さらに、最後に、今後は協議会において検討されることを期待とございます。担当課からは現在懇談会で検討を継続中とのこととございます。

簡単ですが、以上でございます。

○座長 ありがとうございます。

ただいま資料1に関しまして全県の進捗状況の確認ということで説明をいただきました。また、いわゆる第2回会議以降の宿題いただいておりますので、代理出席等も含めご説明のほうをいただきました。

代理出席に関しては座長提案というふうな形をとらせていただきました。原則としまして、皆様、当然ご本人にご出席いただきたいわけですがけれども、本日の会議も含め、様々な地域に、これだけの皆様方を集めるのはなかなか難しいものでして、その場合、代理出席というふうなものを可能としようというふうな提案であります。

他方で、代理出席の場合におきましてですがけれども、話し合った内容等を構成員に適切に伝達をし、そしてその後の会議運営に支障を来さないようにしていくというふうなことを、事務局側も、そして代理出席者の皆様にもお願いしたいなというふうに思っております。

最後にありました長野県の公私立高等学校の在り方懇談会ということで、報告書の概要のほうを抜粋して載せさせていただきました。こちらは令和2年2月に公表したものであります。年度において合計4回の会議を行いまして、私のほうが座長を拝命して運営のほうをさせていただきまして。構成のメンバーとしましては、長野県の高校の校長先生、私立学校の校長先生、また中学校長、さらには市町村の教育長、PTA関係者という形で幅広い方々からお話をお伺いしまして、その報告書の内容を抜粋したものがこちらになっております。

これはあくまで懇談会の報告書というふうな形になっていまして、これを受けて、現在、長野県が設置しております公立高等学校連絡協議会というふうな組織体において、この報告書を踏まえた具体的な制度設計についての議論が行われているということになります。ご承知おきいただけたらと思っております。

こちらをお出しした意味、あるいは理由ですけれども、それぞれ地区においては私立学校の存在は無視し得ないのではないかとといったようなご意見や、それぞれの定員についてどのようなルールがあるのかというふうなことのご質問をいただいておりますので、それに回答する形で、概要ではありますけれども、載せさせていただきました。必要に応じて報告書の本文をと思っておりますので、ご入り用でしたら、またご意見等をいただけたらと思っております。

今、全県の進捗状況及び第2回会議のいわゆる宿題についてお答えさせていただきましたけれども、この件について何かご発言、いかがでしょうか。

お願いいたします。

○安曇野市長 この課題につきましては、松本の会議で私のほうから若干疑問と言いますか、お願いを申し上げたものでございます。

最初から構成をしているメンバーは、それぞれの組織を代表する皆さんであります。ただ、忙しいし、自分の組織を持っているので、必ずしも組織構成員の意見を集約するところでは無理だと思うんです。例えば私の立場とすれば市長という立場であります。市民の皆さんの意見を全部聞くなんていうことはとても無理ですし、そういうことはできないんです。ところが、代理出席は認めてもらったんですけれども、代理出席者は、会議内容を構成員に適切に伝達し、ということ、これもとても無理だと私は思うんです。そうすると代理出席ではない皆さんは構成員の意見を聞いてここへ出てきているかということ、そんなわけにはいかないんです、とても忙しくて。

今日の会議も、年度末で村長さんたちがお見えにならないけれども、いろいろ催し物があるとしますし、年度末で非常に忙しい時期なんです。この時期に設定したということについても若干疑問を持ちます。

これ、代理出席者だけに大きな負担がかかるようになっていくんです。会議の運営に支障を来すことがないようにというふうになっていきますけれども、これはそうすると今日お見えの皆さんはそれぞれの代表者として出てきているのですが、自分の意見ではなくて、構成員の意見を聞いてきたということでしょうか。これは代理出席者だけに何か責任を持たせるよ

うな感じにとれますけれども、その辺についてご説明を、事務局のほうからお願いします。

○座長 ありがとうございます。

1点、座長提案の文言等はありませんけれども、こちらは当然事務局のほうで適切に代理出席者ごとに構成員に対してのレクチャーも含めさせていただくということを前提とした文であります。

その他個別具体的なことについて事務局のほうからお答えいただけますでしょうか。

○事務局 事務局を仰せつかってます山岸でございます。

前回そして、ただいま宮澤市長のほうからご指摘がございました。県といたしましては、懇話会において、この地区の高等学校における様々なご意見をなるべく多く適切に吸い上げて、そして議論を活性化させていただきたいと思っております。構成員の皆様、役職をお持ちで大変お忙しいと思っておりますけれども、会議につきましては事前に日程調整を密にさせていただきまして、そして設定をさせていただいております。その中で出席をすることが前提とするところがございますけれども、大変お忙しい中ですので、代理に出席していただいております方のご意見をいただきたいというふうに思っております。また、代理の方につきましては構成員の皆さんと連絡を密にさせていただいて、そして情報を共有させていただくということをお願いしたいと思っております。

○安曇野市長 私はちょっと理解できなんでしょうね。これ、代理出席者だけに構成員に適切に伝達しろということなんですけど、代理出席者でない皆さんはそれぞれの組織を持っていて忙しいので、そんなみんなの意見を聞いてくるなんていうことはとても無理なんです。

今日も十数人お休みになっているわけですね。お休みというか、ここに出席いただいてないんですよ。農協さんだけが代理出席で出てきていただいて敬意を表するところがございますけれども、そうすると他の代理出席ではない皆さんは構成員の意見を聞いて、そうすると例えば私どもの立場は、議会の意見を聞いてくるのか、どのように考えているのでしょうか。

○座長 すみません、文面をもう一度目を通していただけたらと思うんですけれども、こちらで代理出席者は会議内容等を構成員にというのは、その組織全体の構成員を表しているわけではなくて、代理のご本人にきちんと伝えるという意味での構成員というふうに使っております。したがって、例えばですけれども、ある方が欠席された場合は、代理出席の方はその欠席された方にきちんと情報を伝えていただきたいというような趣旨で書かせていただきました。

○安曇野市長 ちょっといいですか。

○座長 はい。

○安曇野市長 そうすると、代理出席者は各団体の構成員の長から、代理で出てくるということですが、その方の意見を聞いてということなんですが、そうすると他の代理出席ではない、本人が出てきてくださる皆さんは、その構成員の意見なんて聞けない、私は最初から申し上げたんですけども、各団体を集めてそこで意見を聞いたというアリバイづくりにしてしまうだけで、本当の意味で構成員の意見を聞くなんていうことはとても無理だと思うんです。だから私見が当然こういうところは入ってくるんです。その辺は教育委員会としてはどのように考えているのでしょうか。

○事務局 今回、様々な組織、団体から構成員をお願いしております。今宮澤市長さんが言われたように組織を代表するというようなお立場で、その組織のご意見を吸い上げてくる必要があるんじゃないかというようなことだと思いますが、そうしていただければ一番いいわけですけども、かなり厳しい状況がございます。しかし、その組織の代表というようなお立場ということで、ご発言、ご意見を忌憚なく言っていただければいいかなというような感じで我々は捉えています。

以上です。

○安曇野市長 もう1回、すみません。時間をとらせてすみませんが、これは構成員に適切に伝達するということは、構成員ということは、その組織を構成している皆さんを指すのではないんですか。ここでいう構成員というのは、そうすると例えばJAならJAの組合長と、ここへ出てくる代表者が構成員という、一人の構成員ではあるけれども、大多数の意見ではないですわね。

○座長 はい、それは私のほうから。

○安曇野市長 一人でも構成員、関係している場合は構成員ということで、そうすると言いは悪いのですけれども、各団体の意見というのはどういうふうに掌握するのですか。だから結局代表して出てきても、個人の意見が主になってしまう。最初から申し上げているとおりで、これは団体の意思として出てきているわけではないんですね。

○座長 発言させていただきます。

私のこの文面を見て、分かりにくかったかもしれませんが、本会議は旧第11通学区高等学校教育懇話会の構成員のご本人が出席することを原則といたします。ただ、それがかなわない場合には代理出席を出していただくというふうな仕組みをここで提案させていただきます。

た。他方で、代理で出ていただいた方は、代理というふうなことですけれども、会議内容等を旧第11通学区高等学校教育懇話会の代表者の方に適切に伝達いただくというふうな趣旨で書かせていただいた形になります。

ですので、この代理出席の文面については今のご理解いただけたと思いますし、それぞれの代表者として出てきていただく上での意思決定、あるいは情報収集、そして民意を含めた取りまとめについては、それぞれ皆さんの責任の中でやっていただきたいというのはこちらの立場であります。

差し当たり、よろしいでしょうか。

○安曇野市長 何かすっきりしないですが、会議を進めてください。

○座長 では、もう一度、ここは重要なことですので説明をさせていただきます。

ここで言う構成員というのはこの懇話会の構成員を指します。代理出席というのは、その懇話会の構成員、すなわちそれぞれ皆様方が出席がかなわない場合に出ていただく方を指します。また、その代理の方は、ここで言う構成員は懇話会の我々それぞれ一人ずつということで、これは議事録のほうにきちんと残しておいていただきたいことでもあります。よろしく願いいたします。

それでは、時間もありますので、また次第のほうに移っていきたく思っております。

各研究部会からの報告ということで、資料2を見ていただけますでしょうか。ホチキス止め、左2か所になります。

この間それぞれ研究部会Ⅰということで、松本地区、Ⅱとして塩尻地区、Ⅲとして安曇野地区ということで三つの研究部会のほうを開催させていただきました。冒頭少し丁寧にこちらのほうの説明をしていただきたいなというふうに思っております。

では、最初に松本の研究部会Ⅰということで。

○研究部会Ⅰ（松本） それでは、研究部会Ⅰ、松本地区の報告をさせていただきます。

資料2の1ページをご覧ください。

着座にて説明をさせていただきます。

研究部会Ⅰでは、8名の委員に、オブザーバーとして荒井座長を加え9名の構成員で3回にわたり研究部会を開催いたしました。

そこにありますように、11月9日、第1回研究部会を持ちまして、まず県からの資料を基に、旧第11通学区の通学生（卒業予定者除く）や、他地区との転出入の状況、高校改革の実施方針、県立高校「未来の学校」構築事業実践校について、県立高校の募集定員の充足率や

私立高校の状況などについて、共通理解を図るとともに、今までの2回の懇話会で出された論点を含め、間口を絞らずに意見交換の場を持ちました。

2回目、12月21日でありますが、ここでは松本市内県立高校7校と私立高校5校の校長先生にご出席をいただきまして、各校の教育活動の状況と課題等についてご発表いただき、その後意見交換の場を持ちました。

3回目は2月12日でありますが、ここでは今までの2回の研究部会の論点整理の確認と、第3回懇話会に向けての総括的な意見交換の場といたしました。また、今後のアンケートの実施方法やスケジュール等についても検討いたしました。

この3回の研究部会での意見は、当初から特に集約をしないで、そのまま報告することを確認いたしました。羅列になっては非常に分かりにくいので、大きなくくりとして見出しをつけ整理をいたしまして、報告といたします。

それでは、1ページの下段から簡単に説明をさせていただきます。

報告の在り方に関しての委員の意見ということで、(1)情報発信・提供について、現状認識と対応であります。そのア、イにありますように、高校の環境づくりについては新たな学びの推進と、いわゆる編成整備計画の2軸で進んでいるということであるが、イにありますように、特に高校の再編等については保護者や同窓会への早めの周知、丁寧な説明、きめ細やかな情報発信が必要である。ウ、エにありますように、そのための方法として、SNSやホームページ等の工夫が必要である。また、各学校の発信として、オ、カにありますように、全ての高校がさらなる情報発信が必要である。また、各高校がどんな活動をしているか、総合的に見るができる機会も必要であるという意見、そして加えまして、キにありますように、活字以上に体験教室ですとか、その学校の学生との懇談などの体験が大事であって、各校の特徴が伝わる機会が必要だというご意見も出されました。

2ページ目にお進みください。

2ページ、ケにおきまして、県立高校の情報発信については私立高校と比べて相当頑張らないといけない状態であるというご意見が出されました。特に第2回の校長先生方、資料等を、パンフレット等もご持参いただいて説明をいただいた中でそのような意見が出されています。また、高校生自身が語ってくれるサイトも取れましたけれども、ホームページや動画などの様々なツールということも大事にしてほしいという意見が出されています。

その下のコ、サにありますように、ただ、現在はなかなか関心が高まっていないという現状があるので、具体的な案が見えてきたときに初めて関心が高まる。また、サにありますよ

うに最終的にはある程度の2本の柱が固まった時点でしっかり周知、様々な議論が必要であるというご意見が出されています。

高校への理解度ということで、例えばスにありますように、情報発信、情報提供に関しては、そこに学びのスタイルの変化、高校再編という、先ほども2軸という意見がありました。その2本の柱があるが、高校再編はいろいろな価値観があり、課題はあるけれども、学びのスタイルが変わっていくことについてはこれは可能になるのではないかということのご意見が出されました。

セにつきましては、その学びのスタイルに関しては、県としてさらなる周知ということで、プロモーション動画の作成ですとか、ホームページ、SNSの活用、それから、学びがどのように実際に変わっていくかということをしかり伝えていかないとなかなか理解は困難になる。そうしないと、人が減るから廃校にするという、そういう印象を与えかねないというご意見も出されました。

(2) 学びのスタイルについて、子どもや親の視点でという面では、そのイ、ウ、エはそれぞれ子どもの立場から見て、今の子どもは具体的にどこの高校というよりも、世界に目を向けて進路選択をしている。また、ウに書かれていますように、子どもたちが目指したいものが多様化して、県外への進学等も多くなっている。また、保護者の中には子どもの学びたいところで学ばせたいという希望もある。エにありますように子どもは通学の利便性ですとか、部活の魅力で高校を選択しても、親が学力での選択が多い。そこでやはり親子の間のギャップがあり、中途退学等の可能性もあるので、その分、中学の進路指導がより重要になってくるのではないか。

そしてオにありますように麻績地区の現状も具体的にお話をいただいております。

また、その下、一番下ですけれども、カ、そして次のページのキ、クについては、やはり親と子どもの意識の差というのが現在あるのではないかという指摘が何人かの皆さんからされています。例えばキにありますように、親は自分の受けた教育観で子どもの進学先を選ぶ、そして親子関係が悪くなる一因になっている。それから、逆に、親は子どもの意識を超え、戦略的に考えている保護者も松本地区では増加しているのではないかという意見も出されています。

ですので、クにありますように、PTA連合会等での情報発信も、いわゆる保護者への周知というのがこれからより必要になるのではないかというご意見が出されています。

続きまして、高校からの視点ということで、高校の校長先生のご意見を聞くというような

形から出されたもの、例えばコにありますように、高校入学後の実情については、高校入学後の進路変更はやはりあるということで、特に友人関係によって進路変更するケースが多いという話がありました。そして退学よりも転学を選択し、その転学先として通信制を選ぶということが最近では非常に多いということで、通信制の役割は大変重要になってきているという話、そして最近では自分の将来を見据えて当初から通信制を選択する、積極的に選択するという生徒が増えているというお話もありました。

それから、スでありますけれども、高校教育は子どもの将来の進む方向を決める上でとても重要である。単なる進学に限らず、やはり将来に夢を持たせることが大事で、いわゆる高校生活の中で子どもたちにモチベーションを上げる取組が重要になるというご意見が出されています。

それから、その他幾つか出されていますけれども、例えばトでありますけれども、下から二つ目のトでは、県教育委員会が掲げております「～夢に挑戦する学び～」という、これはキャリア教育という視点ではやや抽象的であるという意見が出されています。

続きまして、4ページにお進みください。

(3) 公立、私立と定時制、通信制についてであります。

公立高校の役割として、アにありますように、公立学校の役割は、学びの下支えとして学習の幅の広さや丁寧さ、学びたいことを学びたいところでという子どもたちに夢を持たせるということで、そういうことで非常に特色をそれぞれが出し、子どもたちが選択できるようなことが重要であるというご意見、それから、後ほども出てきますけれども、イにありますように公立高校の地域との関係性というのが大きなテーマになるのではないかと。それは後ほどもまた出てきますので、その部分で説明をいたします。

それから、公立高校のウのところではありますが、中信地区には現在文部科学省の教育指定校が一つもないという現状、それから、県立の中高一貫校が長野県では屋代と諏訪清陵にあるんですけども、東信と中信にはない。それはやはり課題ではないかというご意見も出されています。

次に、私立の取組でありますけれども、エ、オにありますように、私立高校はもう既に15年前から少子化について議論し、生き残りのために多様なバリエーションなり、それから、特色ある学校づくりに既に取り組んできているというご意見、それから、校長先生からもそのようなご発言がありました。

そして次に、定時制、通信制についてでありますけれども、定時制、通信制高校は非常に

不登校等の経験者が多いということで、少子化の中でも定時制、通信制の生徒数が減っていない現状があって、高校の再編問題は公立、私立と同時に、定時制、通信制も、この三極化というのをしっかり考えていかななくてはいけないのではないかというご意見、それから、ケにありますように、今の繰り返しになりますけれども、定時制、通信制も子どもたちにとっては貴重な居場所であり、進路選択の一つであるというご意見、ただ、サにありますように中学校現場からは、中学校の卒業後の進路をインターネットの通信制に行くからいいと、最初からそれを決めてしまって中学時代を過ごす不登校の子どもが実在する。そういう中で実際の中学校の進路指導という面では非常に悩ましい部分があるということです。いわゆる入れるから大丈夫という、そういう面がある。もう勉強しなくても、入れてしまうという、何かそういう現状もあるということでもあります。

(4) 特別な支援を要する子どもへの対応、これは多分、各部会でも話題になったことだと思いますけれども、ア、イにありますように、子どもの個性、特性を含めて非常に多様化が進む中で、どう学びを保障していくかが大事ということで、イについては現在の県立高校ではまだ全てが受け入られていない現状があるので、全ての高校が多様な支援を必要とする生徒に対する学びの保障が必要になる。

次に、5ページに移ります。

5ページのエであります。不登校など、繰り返しになりますけれども、多様な子どもが増える中で、高校自身も多様化して、受け皿になっている。そして全員が受け入れられるということが地域全体がよくなること、そうやって地域全体がよくなっていくことが必要ではないかというご意見、また、カの2行目になりますけれども、やはり対応できない学校がないように、全ての学校できちんと特別に支援を要する子どもたちへの対応ができるように、県議会としてしっかり考えていく必要があるのではないかというご意見、また、具体的な対応策として幾つかの具体的な高校の取組とお話がありました。

キについては、筑北村にあります日本ウエルネス長野高等学校の特色ある取組、それから、クについては信濃むつみ高校や松本筑摩高校の取組、それから、ケでは、岐阜県にある不登校特認校、多分これは西濃学園ではないかと思うんですけれども、その取組、それから、コについては、日本語を母語としない子どもたちの高等への進学先というのですか、やはり学習言語の習得がまだ十分でないので、この辺も公立、私立のほうに目を向けてもらうことが必要ではないかというご意見がございました。

次、(5) 部活動についてであります。いわゆる高校の特色、部活動があるわけですけれ

ども、中学校現場の先生からも、中学校は少子化により例えば野球は合同チームをつくらないと成立しないという、そういう状況があるが、県立高校も同様の状況があるのではないかと。しかし、逆に私立高校では部活動に特化したり、非常に強化をするクラブ等の特徴を出している。公立高校でも、子どもの興味からこの高等学校という、そういう取組が必要ではないかというご意見、しかし、イにありますように、県立高校の部活動の現状は教員のボランティアに乗っているような現状があつて、チーム的にも質的にもなかなか厳しい部活があるという現状であるという報告もございました。中学校の部活動も今後大きく変わることが予想されていくわけですが、高校の部活動の在り方についても今後やはり大きく変わっていくのではないかと、そして高校の教育から分離していく必要があるというようなご発言もございました。

続いて、(6) 地域との連携、先ほども出てきましたけれども、地域との連携につきましては、これからいわゆる小学校、中学校もコミュニティスクール等で地域との連携を深めていくわけですが、高校にも地域との連携をして、プロフェッショナル、社会人ですとか、実務家教育と言われる、そういう人たちから学んでいく機会がこれからは一層必要になってくるのではないかと、ここで日本ウエルネス長野高等学校の取組が紹介されました。

続きまして、6 ページにお進みください。

6 ページのウ、エにあります、やはり高校の特色として、地域との連携ということが特色づくりになっていくのではないかと、というご発言が出ておりました。特に中山間地存立校においてはそのことが大きな特色になっていくというご発言、それから、オに関してはキャリア教育に関してであります、小中学校でもキャリアパスポートという取組がスタートして、小学校、中学校時代に、自分はどんな勉強をしてどんなふうになりたいか、そしてどんな取組をしてきたかというようなことを引き継いでいく。小学校から中学校、またさらに中学校から高校に引き継いでいく、そういう取組が始まっていますので、高校にまで引き継ぐ仕組みをしっかり受け継いで、例えば飯田地域で始まっています地域人教育のような、そういう取組に今後またこの地域でも生かしていくことが、教育委員会も関わりながら、必要ではないかというご発言がありました。

(7) これは松本地区の特色の一つとしてあると思いますが、実際に座長の荒井先生にも関わっていただきまして、そこにイにありますように、信州大学、県ヶ丘高校、清水中学校の中高大の連携交流という取組が始まっていますが、このような取組をやはり今後さらに進

めていく必要があるのではないかとということで事例発表等もございました。ウにありますように学びの継続ですとか探求的な学びを深めていく上で今後大事になっていくのではないかと。

それから、オにあります、オでは、今度は県立高校同士の連携、ネットワークをもっと充実できて、そのことから新しい学びのスタイルですとか、高校生同士の学びの広がりを目指したい。

それから、キにおきましては、今度は県立高校同士ではなく、公立高校、県立高校と私立高校の連携についても今後模索していったらどうかということが、7ページのクにもそのことが掲げられていますけれども、いわゆる高校間連携をいろいろな形で取組を進めていったらどうか。逆にいうと、カにありますように、括弧の中で、松本地域のキャンパス化というようなご発言もありましたので、最終的にそのような形も今後考えられるのではないかとという意見が出されました。

最後になりますけれども、7ページの(8)施設環境整備の面については、今特に小中学校ではGIGAスクール構想というのが来年4月から本格実施になるわけですが、ICTを活用した学びの連続性、小学校、中学校、高等学校、その学びの連続性を大事にしながら、より深い学びを実現していくという取組、そういう意味での環境整備、施設整備を含めて大事ではないかという意見が何人かの委員さんから出されたということでもあります。

冒頭で申し上げましたように、松本地域では特に意見集約するということではなく、ただまとめさせていただいた、見出しをつけてまとめさせていただいて、今ご報告をさせていただきました。

もし補足等がございましたら、ご出席の構成員の皆さんからまた補足をいただけたらと思います。

以上で、研究部会Ⅰの報告とさせていただきます。

○座長 ありがとうございます。

今、研究部会Ⅰの松本市についての報告をいただきました。

ご参加いただいた方を含め、補足があるかと思えますし、何か記載内容についてもう少し詳しくとか、質問等あれば、ここで一旦受け止められると思えますけれども、いかがでしょうか。

お願いいたします。

○安曇野市教育長 安曇野市教育長の橋渡でございます。

6ページの学校間連携ということで、県立高校同士、また公立と私立との連携をしていく

というようなお話がございましたけれども、松本地域には専門学科として松本工業高校がございましてけれども、私ども安曇野のほうは商業、農業等の学科もございまして、広域的に見ると非常にバランスよく配置されているように思うんですが、松本だけ取り上げてみると、工業、これは1校しかない。また商業は松商学園もあるわけですがけれども。

今、私どものところでも、これからの時代を見据えたときには農業だけではなくて、商業や工業の学びも必要になってくるんだという議論が始まっているわけがございましてけれども、松本工業の学校のシートを見ますと、特別、他の学科との連携融合は必要だという課題は書かれておりませんが、この学校間連携の中で専門学科同士の連携というようなところは具体的に何か話題になったのかどうか、そんなことを補足でご説明いただければと思います。

○研究部会Ⅰ（松本） 松本地区では具体的な高校については議論は出ませんでした。松本工業ももちろんものづくりというのですか、工業としてありますけれども、いわゆる高校間連携ではそれぞれの高校の強みをこれから互いに見直し合うという、そういうことが必要ではないかというような総括的な意見で、特に松本工業云々という、それから、他という発言はございませんでした。今すぐに課題というよりも、今後長い目で見たとときに、特に松本地域は高校が密集しているというのですか、例えば松本工業があり、松商学園があり、県ヶ丘がありという、非常に密集しているという強みも、いわゆる距離的な近さですか、そういうことも連携で将来的には生かしていけるのではないかという趣旨の発言はありましたけれども、特に特定の高校についてのご発言はございませんでした。

○安曇野市教育長 ありがとうございます。

○座長 他にはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、座長としても少し、概要をと思います。

私も参加させていただきましたけれども、松本のほうでまとめていただきましたが、大きく分けて五つほど論点というものが出ておりました。この形式自体は全ての学校長、そして公立、私立も含めて高校さんにはお越しいただいて概要発表もいただきました。そのことも改めてご承知おきいただけたらと思いますし、資料5におきましては高等学校の共通資料ということで、それぞれの学校、学科が同じフォーマットで情報をお出しいただいております。

今、赤羽教育長のほうから説明がありましたとおり、松本のほうでは様々な議論が行われましたけれども、五つほどにまとめられるかなと思っております。

順を追ってと思いますが、一つ目は、公立の高校における情報発信、あるいは情報提供に

ついてもう少し具体的に検討する必要があるのではないかと。SNSやホームページ等を含めて、その取組、様々な取組をされていますので、その情報発信の在り方を検討すべきではないかということが1点目として挙げられるかと思えます。

2点目に関しましては、松本地区には私立学校の存在を無視し得ないということがありまして、公立と私立の役割の在り方、分担の在り方について検討すべきではないかというのが2点目です。

3点目は、定時制、通信制の充実ということで、不登校に限らずではありますけれども、多様なお子さんのセーフティネットを居場所として議論しているのではないかということのご指摘がありました。

4点目におきましては、部活動です。少子化において、これは国の方針でも2025年度以降、部活動を社会体育化していくという方針が示されていますけれども、そうした社会における部活動の在り方を松本地域で再度検討をせざるを得ないという状況があるのではないかとこのうふうな話かと思えます。

最後の5点目は、今ご質問がありましたけれども、地域連携、学校間連携ということかと思えます。それぞれ既に県立の高校と地域との連携というのは進んでおります。また、県立同士の連携も進んでおります。例えばそれぞれ探求的な学びということが行われていますけれども、その発表会に別の高校の高校生をゲストとして招いてプレゼンテーションをいただくというふうなことも、ちょうど昨日そのような取組も行われました。

最後のご質問で、松本工業高校に関しましても、普通科における高校の探求的な学びのアイデアを工業高校において具体的なものづくりに生かせるかどうかというふうな検討も進められていたりもします。またご承知おきいただけたらと思っております。

それでは、また後ほど戻ってこられればと思えますけれども、研究部会Ⅱの塩尻の報告をお願いできたらと思えます。

○研究部会Ⅱ（塩尻） 塩尻市教育長の赤羽高志です。

先ほど報告がありました松本市と重なる部分もありますが、研究部会Ⅱ（塩尻）の報告をさせていただきます。

着座にて失礼いたします。

資料ですが、資料2の9ページから始まります。塩尻では1ページになっておりますが。

まず初めに1回目、2回目、3回目という順番に沿って説明していきたいと思えますので、資料13ページをお開きください。

第1回研究部会は、11月9日、塩尻市総合文化センターで行われました。

(1) 学びのあり方に関わる意見では、探求的な学びについてということで、①高校においても講義型の授業と併せて、探求的な学びを意識した授業展開になっている。②生徒は自ら課題を見つけ追求していく将来につながる課題に対し主体的に学んでいると、このような校長先生からの発表がありました。志学館高校のタバタ校長なんですが、是非構成員もその高校生の授業の様子を直接見てみたいなと考えました。

それから、⑥をお願いします。先ほども出ましたが、キャリア教育に関しては、市内中学校との情報交換を行い、中学校で活用しているキャリアパスポートを継続して、高校でも活用できないかと検討している。中高の連携を願う意見がありました。私の知っているところでも、中学校でやったことをそのまま高校もまた同じようにやっているというか、なかなか流れがうまくいってないところがありますので、その続きでできるような形がいいのではないかと、そういう意見も出ました。

続いて、特別支援教育について話がありました。①高校において特別支援教育への理解が進み、受け皿となる通級指導教室など中信地区への設置が望まれる。そうしてほしいという意見です。②中学校の自情障の生徒たちにとって、通信制や多部制などの少人数対応の学びの場の役割はとても大きい、そういう意見もありました。

(2) 環境整備に関わる意見の中では、ア、人的配置であります。①特別支援教育、地域連携教育、ICT活用教育など新しいことを行うに当たり、やはり人材の育成プラス人員増が必要だ、そういう意見や、②新しいことを行うためには何かを減らす必要がある。スクラップ・アンド・ビルドということ、そういう意見も出されました。

続いて、14ページをお開きください。

その他として、子どもたちの高校の選び方について意見が出されました。①高校名での憧れがある。自分の特性や興味から学科を選ぶ。また、部活動、制服で選択することもあるといった意見もいただきました。

続きまして、お戻りいただき、資料10ページをお開きください。

第2回の研究部会は、12月17日、塩尻志学館高校で行いました。

部会前半で3年生と1・2年生の合同学習の様子を、全クラス公開の参観をさせていただきました。高校生の授業など見たことがなかったので、皆さんわくわくして参観させていただきました。

(1) 授業参観の様子ですが、3年生が自分が進む進路について、これまで取り組んでき

たことを伝え、1・2年生からはその質問を受けるという内容であります。

構成員の感想です。自分の言葉で伝えることができる生徒たちであると感じた。当時の自分を振り返って、上級生と下級生の進路交流会のような、そんな授業を受けてみたいと思った。発言の様子から立派な生徒たちであると感じた。一人一人の学びの場が3年間あると感じた。夢の実現に向かって取り組む姿に感動した。3年生が常にリードし、自分が進む進路と決めたその理由、今まで努力してきたことを自信を持って伝えている姿がありました。それをしっかりと聞き入る1・2年生の姿が私はとても新鮮でありました。

続いて、(2) 3校の高校から聞き取りが行われました。簡単に説明したいと思います。

塩尻志学館高校では、学びを校内、机上のみに完結させない。地元の人、物、事につながる学びについて取り組み、地域に根差す高校として地元の資産を生かした学習を行っている。教師にとっては教材研究や事前準備にかかる時間は当然増えてきますが、総合学科という特色ある高校の実践につながっていく。そういう意見がありました。

田川高校です。昔に比べ地域に出ていく活動も増えている。地域連携ということで夏休みに小学生の勉強を指導する高校生がいる。そのようなことも行っております。特別な配慮を要する生徒が多くなっている。ICT活用教育への対応等が課題になっている。開校当時、学年10学級であったが、現在は半分の5学級になった。それでも定員割れの状況にある。少子化によって以前のようなクラブ活動もできない。校舎は老朽化している。志学館高校も同様なんです、現場に行ってみまして、私学や小中学校の教育環境に大きな差があることを思いました。

続いて、11ページをお開きください。

東京都市大学塩尻高校であります。私立高校はスピードと独自性が重要である。スポーツと学業の両立をそれぞれ力を入れている。学びたい子には朝から晩まで学習だけに打ち込める学習の場を設けたコースもある。また、グローバル的な人材の育成や文武両道コースの成立も図っている。少子化の中で募集定員数の学年への対応、今までの併願受験者の受け皿から専願受験者の確保へ切り替えていく必要がある。そこが課題である。

私立高校の発表を聞き、公立とのその特色の大きな差が明確に出ておりました。

続いて、(3) 身近な地域の高校について意見交換を行いました。

質問として、①中学校でも特別な配慮が必要な生徒が増えており、不登校を含めた高校の対応について聞きたい。校内では教育相談係や特別支援コーディネーターの役割も職員が行っており、外部からカウンセラーをお願いしている。校内には教育相談室を設置しているが、

義務教育のような特別支援学級が設置されない中、週1回程度個別の支援会を行っている。

私立高校ですが、保護者は私立校が何でも受け入れてくれると考えているが、できる範囲で対応している、そういう意見がありました。

②です。探求的な学びについてどのような取組をしているかということですが、板書や講義型の授業からICTの活用、生徒への対等的な授業へと変わってきている。教員、若手もベテランも意識が変わってきており、双方向型の授業が展開されている。そういうご回答がありました。

続いて、12ページをお開きください。

③高校卒業後に地域で活躍している姿はあるのかということで、そこに書かれているような回答がありました。

ご意見として、事業所見学について、生徒自ら電話相談があり、自分で行動していると感じられますが、社会に出てから自分で考えて行動する力が弱いと感じている。言われたことはやるが、自分から行動しようとならないパターンもある。まず、仕事や物事に興味関心を持って、そこから自分で考えることにつながる、そういうことが大切だという大事なお話もいただきました。

最後に、まとめの第3回研究部会は、2月12日、塩尻総合文化センターで行われました。

資料、9ページをお開きください。

大きく4点であります。

特別支援教育への支援の充実、ICT活用教育の充実、地域に開かれた学びの充実、キャリア教育の充実、高校間連携の必要性についてです。

まず、特別支援教育への支援の充実では、現状と課題として、特別な配慮を要する生徒が増加傾向にある。特に長野県の義務教育では、特別支援学級という言葉ですが、とても増えております。他県では通級教室を進めていくという、その辺の差があるそうです。

課題2での回答としましては、専門的な知識を有する人材の配置や通級指導教室の整備等が必要と出されました。

(2) ICT教育活用の充実では、課題として、小中学校では1人1台タブレット端末が設置され活用がされ始めている。社会情勢によりICT活用が必要となっている。その課題への対応策としまして、生徒1人1台のタブレット端末の整備等がなされました。

(3) 地域に開かれた学びの充実、キャリア教育の充実では、現状と課題としまして、地域に開かれた教育課程が進められている。生徒たちが自分の考えで行動できるような学びが

これから必要である。高校での普通科改革が求められる。

課題への対応策としましては、学校と産業界の連携の充実が必要ではないか。地域に根差した学習の一層の充実、特色ある教育の充実が必要だと出されました。それから、学校規模や協力方針等、全県での取り組むための環境整備も必要だと出されました。

最後、(4) 高校間連携の必要性、先ほども松本から出ましたが、生徒が望んだ高校で学ぶことがなかなかできない、当然そのようなこともあるわけですが、生徒募集方針というものを基に、高校間の連携をし、中信地区、または全県で考えることがとても重要ではないかといった意見も出されました。

以上で研究部会Ⅱの報告を終わります。

○座長 どうもありがとうございました。

補足あるいはご質問等いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

塩尻の本部会では志学館高校に実際お邪魔して授業を見させていただいて、教育長先生方も、はあ、こんな感じなのかというようなことで感銘を受けられていた、私自身も印象的な場面でありました。

大きく分けて四つほどの論点があるかなと思います。

1つ目は、松本と共通する部分でありますけれども、高校間連携、さらには中学校と高校との連携、連携というか、接続の在り方というのがやはり圏域を含めて重要ではないかというふうな観点です。

2つ目は、今の子どもの夢とか、そういった部分に関係をしてキャリア教育、あるいはIGAスクールを象徴とするICT教育の重要性についてということもご発言等がございました。

3つ目としては、こちらはどの部会にも共通してですけれども、とりわけ義務教育レベルにおいて手厚いとされる特別支援教育とか通級というふうな、そういったものが高校現場ではまだまだ整備がされていないということで、専門的な能力を持ったスタッフに協力支援、ケアなどが必要ではないかというふうな観点です。

4点目は、教育業界と産業界との連携です。コミュニティスクールというふうなことで地域に開かれた教育課程というキーワードがありますけれども、そこでの地域の中にきちんと産業というふうなものを位置づけて展開していくべきではないかという話ができたとお思います。

それでは、続きまして、研究部会Ⅲの安曇野のほうからご報告いただけたらと思います。

○研究部会Ⅲ（安曇野） 研究部会Ⅲの部会長を務めさせていただきました橋渡でございます。

では、15ページをお開きください。

めくっていただいた16ページの下に、構成員の名簿がございます。

17ページの上段に研究部会Ⅲの概要を示させていただきました。

第1回の会議を11月20日に開きまして、そこで県立高校の在り方について、構成員の皆様方と意見交換をいたしました。そしてそれ以降の会議の持ち方について、私どもの研究部会Ⅲでは四つの高校があるわけですけれども、それぞれの高校の校長先生からお話を聞くだけではなくて、同窓会、保護者、教職員、生徒等からも、これからの高校の在り方についてそれぞれのお立場からの考えを伺ったらどうかという提案をさせていただきました。

この中で、ちょうどコロナ禍でもございまして、また行事等も学校の都合もございまして、生徒については別扱いで、同窓会、保護者、教職員については4校でそれぞれ調整をさせていただいて人選をさせていただくということになりまして、2名から3名のご出席をいただくことができました。また、生徒については、その後調整をさせていただきまして、1月から2月にかけて、私ども安曇野市と生坂村の事務局が数人ずつチームをつくりまして、学校へ伺って、放課後1時間程度でございましたけれども、約6名の生徒会役員ですが、来ていただいて懇談をさせていただきました。

その結果につきましては、17ページから学校ごとに記載してございます。また、構成員の皆様方がそれぞれ来ていただいた方々に直接質問をするということもございましたし、また、その後、構成員同士の意見交換もございました。その一つ一つにつきましては、大変恐縮でございますけれども、後ほどしっかりとお目通しをいただきたいと思います。

27ページをご覧ください。

全体を総括した形で概要を報告申し上げます。

まず、第1回の会議で、旧第11通学区の県立高校の在り方について構成員の皆様方と意見交換がございました。教育改革は数合せではいけない。私立高校の特色化が進む中で、公立高校の役割をはっきりさせる必要がある。このことは複数の方から意見がございました。

その次に人口減少に対応するには学校は減らすべきだ。この方は企業の経営者でございまして、企業であれば、県から示された人口動態ですね、中学卒業者の数の予想を見ますと2035年には80%程度になる。20学級以上が少なくなるという中では、経営者の感覚から言えばこれは学校を減らすべきだというご発言がございました。これはお一人の意見でござい

すけれども、ここには載せさせていただいてございます。

生徒の意見を集めるべき、それから、子どもが多様化しており、大勢の生徒が集まっている学べる規模のある学校と少人数での学びを保障できる学校の両方が必要ではないか。子どもの成長段階で人と触れ合う、このことは非常に大事だ。この地域が好きだ、この地域に愛着を持った人を積極的につくっていくことが必要だ。また、地域が地域の学校にもっと関わりや当事者意識を持って考えていく仕組みが必要だ。この最後の意見につきましては、現在小中学校がコミュニティスクールを全てやっているわけですがけれども、高校もそういった形で地域の間が一緒になって学校の運営に関わっていけるような、そういった仕組みが必要だということでございます。

(2) は、第2回、第3回の4校の聞き取りをした結果、大きく四つについてまとめたものでございます。

4校の共通する点につきましては、この四つの高校は地域住民や企業等の交流、関わり、触れ合い、これを非常に大事にしてつながりを持って、そして信頼を深めて、各校の特色や魅力をつくり出して、それが現在まで受け継がれてきている。そのことは直接校長先生だけではなくて、同窓会や教職員、保護者の方からの声を直接聞いて、私ども実感いたしました。そして地域を支える人材の輩出に自信と誇りを持っているんだなということを改めて感じました。

これは次の課題でございまして、専門高校はもちろんのこと、二つの普通高校があるわけですが、非常に多様な生徒が入ってきていて、しかも、それぞれが自分の将来の方向性を一生懸命定めようとしている時期なわけです。そのときに、より多種多様な分野の体験を含むキャリア教育の充実を非常に強く求めているなということを感じました。

具体的に一つお話をしますと、豊科高校の一人の生徒は、この地域にどういう企業があるのか、どういう会社があるのか、そういったことを私たちは余り知らない。小学校、中学生のころから地域のそういったことを知る機会が是非必要だから、一緒になって学べるような何か企画を市のほうで考えてくれないか、そんなような話もございました。

次に、急速に変化する社会、これからの困難な時代を生き抜く生徒たちの教育に対して、高等学校だけでなく、地域全体でその責任を担うことが必要であるという感想を構成員が持った事例です。

次に、少子化に伴う今後予想される生徒減、学級減について、このことによって、部活動等が縮小化していく、こういう憂慮する声がある一方で、専門学科はもともと少人数の探求

的な学びが伝統的に行われている。そしてその教育効果が非常に大きく表れているなということが生徒と直接接してみて私どもも実感しております。これは小回りの利いた体験的な授業展開ができて、教師のサポートが手厚いといったメリットであり、強みであるなということを感じました。落ち着いた雰囲気の中で、安心して自分のペースで学べる地域高校の存在価値は見直されるべきだ。現状の良さを失うべきではない。これは普通高校から出た意見でございます。

ただ、そういう中において、各校とも募集定員が満たないという現実には強い危機感を抱いております。学校の魅力をより一層高めるために地域の力を借りながら、何とかしていきたいという強い思いを感じました。

次に、高校の統廃合については、必要ない、反対だ。つまり現状のままがよいという意見と、やはり統廃合はしていくべきだ、あるいは仕方がないといった両方の意見がありました。これは保護者、あるいは同窓会の中からもございました。

生徒の中からは、私ども生徒にも、今後の中学生卒業生数のグラフを見ていただいて、こんなふうにも子どもの数は減っていくんだな、将来についてどう思うかという質問がございました。生徒は今の良さを大事にしたいという一方で、自分の学校ばかりではなくて、他の学校の良さも取り入れた新たな学校づくりもあるんじゃないかといったような現実を直視した考えも出されました。

さらに、ICT環境がそれぞれ整備が進んでおります。そしてこの4校が地域的にもバランスよく配置されているということで、もっと連携し合って、そして魅力づくりをするということは、今でも、すぐでもできることだ、だから積極的にやっていきたい。例えば、豊科高校の校長先生は今日はお見えになっていないのですが、南安曇農業は本当にすぐ近くにあるのに、これまでほとんど連携がなかった。そのことは非常に残念な思いだ。今すぐにでもやっていきたいんだという強いお言葉がありました。

では、28ページをお開きください。総合技術高校の設置についてでございます。

県の実施方針には、隣接する旧第12通学区とも連携して、広域的、多角的に検討するということが示されておりますけれども、このことは松本も含め、旧第11通学区全体で考えるべき問題だというお話がございました。

二つ目に、既に設置されている県内の総合技術高校、このことを経験された教職員からのご発言がございましたけれども、統合前よかったというふうに認識されていたものが、新しい学校になって、なかなか小回りが利かなくなっていることもあるというようなお話も少し

ございました。そのことが全てそうかどうかは分からないのですけれども、いずれにしろ、総合技術高校というものは一体どういうものなのか、そしてそれがなぜ必要なのか、どこにそれが建つのかというようなことも地域では大きな関心事になっている。そういうことを考えますと、総合技術高校についてはもっと丁寧に説明する必要があるだろうということでございます。

専門高校で長年その教育に携わってきた高校現場の皆様方に、これからの新しい時代にふさわしい教育の在り方についてはどんなふうを考えているのかということを示したところ、6次産業化等への対応など時代のニーズに合わせた学びの環境はそれぞれ皆さん意識をして努力も重ねてきているという自信や自負というものを感じました。さらに、私どもの南安曇農業と穂高商業高校で交流したことも語っていただいて、今でも、この環境の中でもそういった交流が始まっているんだ、できているんだ。一つの新しい学校にしなければ実現できないかという、そういう聞き方もいたしませんでしたけれども、まだまだ学校現場では現在の取組を一生懸命やっているというところまでだなというふうに思いました。いずれにしても、今後、学校現場、同窓会、地域、こういう皆様にもしっかりと納得のできる説明、そして理解をしていただく、協力していただく、そういうことが一層求められると感じました。

今回の意見聴取の中で、普通科の特色や魅力づくりの必要性についての意見も多数ございました。専門学科とともに普通科の在り方も改めて問い直す必要があると思います。そして県全体の目指す教育、これはもう既に示されていると言えればそれまででございますけれども、私ども地域で出されている意見では、例えばこれからの農業に対して、県はどのような人材育成を考えているのか。全県で単科の専門高校をどう残して維持していく、そしてその技術高校との関係をどうしていくか、そういったことも含めた全体のビジョン、こういったものが県民全体で共有できるように説明すること、そして地域の声をしっかり受け止めることも大事だ。また、いろいろな疑問、要望も出されております。これに真摯に耳を傾け、丁寧に答えていくことがこれまで以上に求められるというまとめにさせていただきました。

いずれにいたしましても、私どもコロナ禍において大変ご無理なお願いではございましたけれども、4校の関係者の皆様方には非常にご協力いただきましたし、県教育委員会事務局もその調整に当たっていただきましたこと、改めて感謝と御礼を申し上げ、報告といたします。

○座長 どうもありがとうございました。

ご質問、補足等いかがでしょうか。

お願いいたします。

○PTA 安曇野市PTA連合会の出水と申します。

今教育長のほうからご報告いただきましたけれども、その中の1点、一番最後のページなんですけれども、総合技術高校の設立というお話の中で、是非設置してほしいという意識を感じ取ることができなかったという報告をいただいております。これについて、補足意見というか、個人的な意見になるかもしれませんが、前回、この総合技術高校の具体的な中身については、前回の合同部会で初めて私のほうは、私が勉強不足だったかもしれないんですけれども、内容を確認するという形、その現場でありまして、賛成も反対もなかなかそこが、初めて知ったことに対して反応することができなかったというのが正直な印象です。逆に、資料を読み込む中で、非常に未来を見据えた学校になるのではないかというふうな意見を個人的には、あくまで個人的にはですけども、持ちましたので、その辺が安曇野市の旧第11通学区の総合的な意見という形ではないということを皆さんのほうに知っていただければなということでの一つの意見であります。

以上です。

○座長 ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

お願いいたします。

○安曇野市長 それぞれの部会で大変時間を割いていただいて、お骨折りをいただいて今日発表があったわけですが、この今日のそれぞれの部会で出された意見というのは、教育委員会の人はどういうふうに捉えているのでしょうか。そして懇話会との関連はどういうふうに捉えたらいいのか。今後は、最終的には懇話会が研究部会で出された意見をまとめるということになるのか。そして内容について研究部会はどこまで担保してくださるのか、これらに対してきちんとしたキャッチボールをして投げかけていただいて真剣に答えていただく必要があると思うんですけれども、この組織の在り方、これを私どもは、教育委員会は知事の附属機関ではなくて、任意団体ということですよ。任意団体で出された意見を県教委はどういうふうに捉えて、今後どのように教育委員会として反映をされていくのか。教育は百年の計と言われているので、すぐに結果は出ないとは思いますが、例えば今同じ県が進めている松糸道路の話がこの前も出しました。松糸道路もようやくルート替えが決まったところですが、これまでかかるのに20年かかっているんです。それを県教委としては、今後のスケジュールも含めて、この研究部会の在り方と懇話会の在り方、これについてちょっと説明を

してください。

○座長 ありがとうございます。

今後の進め方について、また後ほどその部分がありますけれども、現時点でもしお答えできる部分があれば。

○事務局 それでは、現時点での考えということでお話しさせていただきたいと思います。

各部分できめ細やかな聞き取りしていただきまして、誠にありがとうございます。

今ご発言いただいた、今座長さんに論点のほうをまとめていただいておりますけれども、懇話会のところで、それについて皆さん方のご意見をいただきながら、それは一つの、どういう形になるかはこれからだと思いますけれども、他地区の状況を見ますと、まとめていただいたご意見、ご提言を踏まえて、私ども県教育委員会としましては再編整備計画を立てていくというようなスケジュールになっていきます。

教育は百年の計というような、今宮澤市長さんからお話がありました。20年後さらにさせるというようなことも、長期計画も視野に入れる必要があるかと思っておりますけれども、これだけ社会が激変する、少子化が進行する中では、いち早くできるところから手を打つというようなことがこれからの子どもたちにとって我々の使命かなと思っておりますので、その点をご理解いただければと思っております。

以上です。

○安曇野市長 本年度、一応3月までには一定の方向を出すというような当初のスケジュールだったというように記憶をいたしております。ただ、コロナ禍の中で、コロナ対策等があったり延びて、たしか1年延ばした来年の3月ですか、一定の方向を出すというようなことが言われておりまして、最終的には県教委が責任を持つということを言われておりますけれども、まとめた意見が反映できるという担保というのはなくて、全ては県教委の責任で、どんどん統廃合ありきで進めていくのかなという思いがいたしております。

それと長野県全体を見た場合に、11通学区と12通学区だけを特化をして現場でもってやっているということに対してこの前質問をさせていただきましたけれども、「高校改革～夢に挑戦する学び～」の中の実施方針として掲げられている、その中に確かに55ページに、第12通学区の専門高校の将来像の検討を併せて広域的、多角的に検討していくことが考えられる、この1行があるから、11と12は研究会を開いてやるんだというような説明だったというように記憶をいたしておりますが、もともとは私ども安曇野市を見た場合には、約50%の皆さん方が松本の高校へ通学していくという状況であって、12通学区のほうは本当にわずかと

言えば失礼になりますけれども、一定のパーセントは行っておりますけれども、ほとんど松本との連携が深いわけです。そういうことを考えれば、最初から普通高校重視、職業高校軽視というように捉えて、少子化の中だからいろいろ検討していく必要はあるかと思いますが、何か定員割れをしているところ、あるいは職業高校だけをターゲットにしているように感じるんですけれども、普通高校であるとか、私学の振興であるとか、こういった連携についてはどのようにお考えなのでしょうか。

○座長 いかがでしょうか、事務局のほうから。

○事務局 もちろん普通高校についても、文科省のほうでも「令和の日本型学校教育」の構築を目指すというようなことの中で、現在7割の生徒が進む普通科については、今後についてしっかり検討する必要があるのではないかというような答申が出ております。それに基づくかどうかは別としまして、そのような背景がございますので、当然普通科の魅力づくりというようなことも考えられるかと思っております。

さらには、決して専門学校を軽視するというようなことではございませんので、その点をご理解いただきたいと思っております。

さらに、懇話会ですけれども、様々な方にご意見をいただく中で、一つに意見をまとめるのはかなり、ご意見それぞれ、100人いれば100人とも考え方が違うこともございますけれども、まとめていただいたものも踏まえて、私どもとして次にもって、繰り返しになりますが、決めていきたいというようなスタンスでおります。

以上です。

○安曇野市長 確かに、この会議で出された意見をまとめて提出すれば、この会議は解散だというような話があったというように記憶をいたしております。出された案がどのように実現されていくかということのほうがより大切なことであります。

したがって、例えば少子化の対応は非常に大切なことではありますけれども、先ほども部会の中で話があった、何といたしますか、有名校というか、そういうところへ行きたいという気持ちがあると思います。具体的に名前を挙げれば、深志高校、令和2年はたしか7クラスだった。ところが、令和3年度は募集定員が8クラスになっています。松本4校を中心にして何か編成をしているような感じを受けざるを得ません。これは少子化だといいいながら、なぜ普通高校、松本4校はそのままにしてある。あるいはクラス数を増やすというようなことについて納得できませんので、県教委の見解を伺わせてください。

○座長 いかがでしょうか。

○事務局 募集定員というような形のご質問かと思いますが、募集定員につきましては、これもいろいろなところでご報告させていただいておりますけれども、隣接通学区との流出入の状況とか、12通学区ごとの以前の状況、さらには過年度卒業生とか県外からの流入者の考慮、さらにはいつも秋くらいにやっておりますが、入学志願者第1回の予定数調査というようなものも加味しながら募集定員を決めておりますので、今お話があったような形で増減すると思われまます。

○安曇野市長 よろしいですか。時間が私だけというわけにはまいりませんが、非常に疑問点があるのでお聞きをしたいのですけれども、例えばこれ、松本4校、みんなが行くから、希望するからということになれば、具体的に言えば、深志高校を8クラスにしなくても10クラスにしても私は定員いっぱいになると思うんです。ただ、有名高へ行って、有名大学への程度行くかということになれば、これまた別な話になるんですけれども、地域としてはこれは有名校というか、進学校というか、そういうところへ親も子どもを出したい、行きたいという思いがあると思うんです。そうすると10クラスにしてくれば、子どもの少子化の中で中心地から離れたところはますます過疎化になるのは当然目に見えているんですね。だからこの在り方が、私はむしろ普通高校のクラス数をもっと減らして、松本4校を減らしていけば、押し出されていけば、他の定員不足しているほうは埋まっていく可能性だってあるかもしれませんね。あるいは深志をキャンパス校にするということになればそこへ人が集まるかもしれないです。もう少し多角的な考え方をしていただきたいなと思いますし、それから、私学との関連で、この地域は他の地域と違って私学が大変栄えている、生き残りをかけて、そこらの学校が特色ある学科をつくって魅力ある高校づくりをしているんですね。そういう面では定員割れしていくということは、そういう学校は魅力がないと言えるのだと思うんです。教育委員会としては会社に例えれば、社長、重役の皆さんが集まっている。そして各学校は支店的な形ですね。そういう中で校長先生が2年や3年で転勤をしてしまう。本当に地域に根差したじっくり腰を据えて教育ができるのかどうか、疑問に思います。魅力ある学校づくり、どうして定員割れをしているのか、魅力のある学校づくりを公立高校としてもしていく必要があると思います。

公立と私立の比率も大体8対2になっているようにお聞きをしています。具体的には82対18というような話も聞いているんですけれども、この枠は取り払って、皆さん方は県立だから県立高校だけ守っていればいいということではなくして、長野県教育の全体の在り方をもう1回考えてもらって、何回か言ってまいりましたけれども、教育県なんて今は言われてない

です。何が教育県、目指すものは何か、もう少しはっきり教育委員会として方針を出していくべきだと思います。

○座長 ありがとうございます。

今のはご意見という形で、また後ほど事務局のほうで返答する機会があればと思っております。

差し当たり、研究部会Ⅲ（安曇野）のほうの概括をちょっとさせていただきたいと思っております。

ここの研究部会Ⅲにおきましては、本当に丁寧に、とりわけ生徒さんも含めて、そして教職員の方もPTAも含めて現状認識とか今後の在り方をお伺いしたというところに特徴があります。公立高校の役割の明確化をしつつ、連携していこうというふうなことで、先ほど近隣の高校間の連携は現状ではほとんどなかったというふうなご発言がありましたけれども、そこが課題だという認識が共有されました。

2点目に関しましては、少子化というふうな現実を直視して、学校を減らすべきだというふうなご発言もございました。また、その定員が割れているというふうな現実に対して、何らかの対応をしているのかどうかというふうな厳しいご指摘もありました。先ほどご紹介したように高等学校の共通資料におきましても、この地区における高校差はいろいろな取組による努力がされているということはヒアリングでもとても伝わってきたことでありますけれども、それらのご意見がありました。

3点目は、大規模、小規模それぞれの高校のバランスといったようなものを考慮すべきだというふうなご意見もございました。

最後になりますけれども、総合技術高校に関しましては様々なご意見、賛成、反対ありまして、これに関しては後ほどご説明いたしますけれども、現状、合同部会というふうなものが開催されております。その報告を待って、また議論をしていくということになるのではないかとこのように思っております。

改めまして、それぞれの研究部会の事務局を務めていただく教育委員会の皆様、本当にありがとうございます。

時間の関係で、また次第のほうに移っていただけたらと思っておりますけれども、ご意見等、意見交換というふうなことでさせていただきましたけれども、差し当たり、松本と塩尻の首長としてということで、今それぞれ研究部会からご報告がありましたけれども、所感を含め一言いただけたらと思っておりますので。

○松本市長 お疲れさまです。松本市長の臥雲でございます。

今、私自身も3研究部会の報告書を改めて詳しく目を通させていただきましたし、ご報告も受けさせていただきました。そして安曇野宮澤市長からも、ご意見、ご質問があるのを拝聴いたしておりました。

その中で一番感じたことが、旧11通学区の高校の将来像を考える、こういう問題に対する自治体間の温度差がやはりあるということであります。研究部会ごとの聞き取りの調査についても安曇野の皆さんの聞き取りの詳細さ、あるいはそれぞれの高校の子どもたちの声を拾い上げておられる、そうした取組というものに対しまして、松本市は現実はまだ具体的な高校名を意識した議論ということにはなっておりませんし、そのことの現状を今日は改めて私自身は感じ取ったところでございます。

そして普通高校重視、職業高校軽視、こういったご発言が、先ほど宮澤市長からそんなことがあるのかというご指摘がありました。私はこの協議会の議論としてもそうしたことはないというふうに考えていますし、また、私自身の松本平における将来の教育の在り方という観点からも、従来の普通高校がこのままで、松本市も含めてであります。生き残っていくとは思いませんし、そして探求の学びのエキスパートは文字どおり現状においては職業高校だというご指摘があるように、私はこれからの次代の子どもたちが豊かに暮らし、生きていくために職業高校、専門高校的なものはより見直され、保護されることが高校教育の一つの大きな柱になると感じております。それを今後の松本市としてもこの問題をやはり我がこととして捉える、その必要性を感じております。

旧11通学区全体で未来を見据えた魅力ある高校をどうつくっていくのか。公立と私立の連携も当然その前提として必要になると思いますし、先ほどから議論の一つになっている総合技術高校の在り方、これも未来を見据えた学校を模索していく中では当然議論の俎上になってくるのだと思います。いずれにしても県内の中でいわば旧11通学区だけが、これまでの高校の議論で遅れているといいますか、進捗状況が遅い状況にあるのは事実だと思います。ただ、これが直ちにマイナスということには私はならないのではないかと。この2020年から21年にかけての大きな時代の転換期に誰もが向き合っているときだからこそ、10年どころか、30年、40年先を見据えた教育の在り方に旧11通学区が取り組んでいける、そういうタイミングにあるし、また、そうしていかなければいけないのではないかとこのように感じております。

以上であります。

○座長 ありがとうございます。

では、塩尻市長から。

○**塩尻市長** 時間が無いので端的に申し上げますが、あくまで私見ですけれども、やはり県立高校の普通校は減らす以外に方法はないんだと、総括いたします。松本市に四つですか、塩尻市に二つございますけれども、少子化は理想論を語っていてもしょうがないんです。進みますよ、しばらくの現状においては。現実的な対応をしなければいけない、地方自治を預かっている者としては。やはり私学に迷惑をかけることなく、強く自らを削るということが原点だと思いますので、県立高校の普通受入れを減らしてください。これはお願いです。

○**座長** ありがとうございます。

市長さん、改めて。

○**安曇野市長** 座長のほうから意見としてお聞きというような発言がございましたけれども、是非このような機会でありますので、県教委にお聞きをしたいんですけれども、私はどうしても普通高校重視、専門高校軽視と受け取られるような状況だと思うんです。

深志高校の在り方、これは人数を増やせば増やすほど学力が分散してしまうんですけれども、松本4校、あるいは保護者の皆さんの意向によって増やしていくのか、これは増やせば増やすほど、ある面では偏差値教育が重視されているように受け取っているんですけれども、学力は低下して分散してしまうと思うんですよね。それで他の3校が倍率を下げることを意図してやっているのか、よく分からないのですけれども、そのようなことは決して普通高校重視で、職業高校軽視ではないというようなことを言っているんですけれども、現実には少子化、少子化と言いながら、一定の松本4校だけは手をつけなくて、むしろ募集定員を増やしているという意図をちょっと説明してください。

○**座長** いかがでしょうか。

○**事務局** 深志高校の募集定員を1増やしたかと思いますが、それは先ほど申したような条件とか、昨年度に比べてこのくらいの、11通学区で中学校卒業予定者数が増えているというようなもろもろの条件から、私どもの部署ではないんですけれども、別の部署が総合的に判断して増やしたものと思われます。よろしいでしょうか。

○**安曇野市長** いや、納得できません。これは偏差値が高い人気校だから、クラスを増やしたというようにとれるのですね。だから、私は前から言っていますように、いろいろな皆さんがいて地域というのは成り立っているし、いろいろな皆さんがそれぞれの立場、立場で個性のある子どもなんだということだと思うんです。だから少子化で統廃合しなければいけないという一方、偏った教育のあり方だと思っています。

それと私学との関連も最初から話をさせていただいているんですけども、やはり私学振興を学ぶべきだと思います。公立高校だけ守っていればいいという時代ではないと思います。

それともう一つお願いですけども、高校教育と義務教育のもう少し連携というものをしっかりしてもらいたいな、高校は県立でありますけれども、小中学校はそれぞれの市町村が建設をしていくというようなことで、その辺の何と言いますか、溝があるように私は感じておりますので、長野県教育全体の在り方についてしっかり教育委員会で取り組んでほしいというようなお願いをしておきます。

○座長 ありがとうございます。

それぞれの市町村長からご発言いただきましたが、他の構成員の皆様はいかがでしょう、何かご意見、ご質問等あれば伺います。

よろしいでしょうか。

それでは、先ほどのご意見等をいただいたことに対する応答にもなるかと思いますが、次第のほうの（４）にいかせていただけたらと思います。

今後の進め方ということで、資料３と資料４をご覧ください。

まず、資料３のほうになりますけれども、事務局と相談させていただいた上でのご提案というような形になります。

既に第２回の懇話会で全体のスケジュールについてはご確認いただいて、ご了承いただいていると理解しておりますけれども、先ほどそれぞれの部会で、とりわけ安曇野地区では高校生の当事者とか保護者の方から意見を聞くというふうな取組をしていただきました。そこに触発されながらということもありますけれども、４月から５月にかけてになります、高校の同窓会、そして中学生、高校生、さらには小中高のPTA関係者に対する意見聴取もしたいというふうに考えております。次回の第４回の会議におきまして、その意見聴取の結果をご報告させていただきたいと思います。その方法等に関しては、後ほどご相談させていただきたいと思っております。

また、その後ですけども、第４回のところ、時間を許す限りになりますけれども、意見提案の内容ということで、（仮称）意見提案書の、それを一定程度、事務局のほうからもこれまで皆様方のご発言、そして私のほうで僭越ながら総括をさせていただいた幾つかの論点に関して提案のほうをさせていただきたいと思っております。

第５回目以降に関しては、こちらにお示ししているとおりでありますけれども、最終的に第７回におきましては、意見提案書の中身についての議論をしていきたいというふうに思っ

ております。

なお、よくこういったいわゆる審議会等におきましてはパブリックコメントというものがあるかと思えますけれども、既にこの審議会を運営するに当たって様々なお立場の方からご意見を頂戴し、また、今後、この後ご相談させていただくような関係者への意見聴取などもしていきたいと思っています。さらに冒頭、県の教育委員会の方針で示されているような、この懇話会におきまして一つの多数決等で結論を得るというふうな形をとらないということが確認されていますので、パブコメ自体は行わないというふうなことを検討しております。

以上、大まかな資料3に関しましてのスケジュールについてのご提案という形ですけれども、おおよそよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、続きまして、資料4以降をご覧いただけたらと思います。

先ほど少しご紹介しましたけれども、様々な当事者、関係者に意見を聴取していきたいというふうな意向がありまして、この後説明させていただくような方法を考えました。これに関して簡単に、まだ案の段階ではありますけれども、事務局のほうから説明をいただけますでしょうか。

○事務局 それでは、事務局から説明を申し上げます。

資料4をご覧ください。

前回会議において関係者に意見聴取を行うということでスケジュールが確認されましたので、各研究部会での意見を頂戴しながら、本日ご提案申し上げるものでございます。

まず、意見聴取の目的でございますけれども、懇話会の審議における基礎資料とするということでございます。

方法としましては、2番(1)の(2)にございますように、オンラインによる質的調査とアンケートによる量的調査を考えてございます。

(2)の質的調査でございますけれども、本年、「高校のあり方フォーラム」というような銘打ちまして、オンラインによりますフォーラムを企画したいと思っております。荒井座長によって今後の在り方について高校生から意見をいただきます。地域にある公立、私立1校に声をかけて参加してみたいと思っております。可能でしたら、各市の教育長様にもご参加いただければと思っております。

2の(2)の質的調査としまして、アンケート調査を企画しております。対象は地区の公立中学校2・3年生と、地区の高校生全員にウェブ調査で調査を予定しております。また、

小中高PTAの役員様、それから、高校の同窓会の役員様にもアンケートを計画しております。実施時期、それから、集計、公表等々についてはご覧いただきたいと思います。

続きまして、資料2の後ろに、中学2・3年生用、それから、高校生に共通用、それから、同窓会、小中高PTA用のアンケートをひな形、現在ひな形を資料として添付してございます。まだ詳細決定できないところもございますけれども、細部にわたっては事務局に預らせていただいて、事務局で相談して決定して実施したいというふうに思っております。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

○座長 ありがとうございます。

資料4に関して事務局からの説明がありました。

今ご説明いただきましたとおり、質的な調査、そして量的な調査の両方を可能な限り多くの定量的・定性的な素材を入手したいというふうに思っております。高校について、さらには内容に関しましては当事者たるこれからの未来を担う中学生がどのような進路選択を、高校についてイメージを持たれているのか、期待する高校像について、また現在在学中の高校生に関しては、現状の学びについてやそれぞれの高校の選択された理由、保護者に関しても、高校像についてのご意見を頂戴できたらというふうに思っております。

個別具体的な質問項目等に関して、ご意見等あるかもしれません。本日は時間の関係で具体的な検討をする時間はございませんけれども、また、事務局を通じてお問合せいただきまして、こういった質問を入れ込んで欲しいとか、その他ご意見等をいただけたらというふうに思っております。

こちらに意見聴取の方法に関しましてはいかがでしょうか。

では、教育長のほうからお願いします。

○安曇野市教育長 橋渡でございます。

時間のないところ申し訳ございません。

中学生に対するアンケートについてでございますけれども、中学生は私ども市町村教育委員会が所管する学校でございまして、私も自分の経験から申し上げますと、中学2・3年生のこの4月の段階でどこまで高校というものを理解できているかということが疑問だなという思いでございます。ですから、そういう実態が分かればいいということではいいかもしれないのですが、先ほど、私どもが直接高校生と対面して聞き取ったように、それぞれの市村が所管している学校は全てではなくてもいいと思うんです。二つでも三つでも、そこへ出向いて行って、何人でも、五、六人でも今後について聞き取りをしても分かる中身ではな

いだろうか、このように感じておりますので、中学生に対して一斉に悉皆的にこの数を全生徒にしなければいけないということについては、実際のところ、GIGAスクールもようやくスタートしたばかりで、学校、教職員の負担とかいろいろ考えましても、是非そんなふうにしていただくことを提案させていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○座長 ありがとうございます。

では、松本市長から。

○松本市長 私は、今の教育長さんと反対の立場にあるかなと思いますが、是非幅広くいろいろなチャンネルでつくり上げていただきたいというふうに思います。もちろん対面でだからこそ聞き取れる部分があるでしょうし、ネットのアンケート、こういうような形だから見えてくるものもあると思います。どちらかと言えば、まだ内容はこれからということでありましたが、中学生、高校生の部分、単に丸つけだけではなくて、自由記述欄を設けていただいて幅広く吸い上げていただきたいと思います。

先ほど拝見したアンケートの中にも、子どもたちは先を見て何かを感じているというような記述がありました。私はそうした部分を、もちろんそれが一人歩きすることには慎重でなければいけない部分がありますけれども、しっかりと組み上げた上での専門家の皆さん、地域の皆さん、教育委員会の皆さんの取りまとめ、こういうプロセスに進んでいただきたいなと思います。

以上です。

○座長 その他ご意見等いかがでしょうか。

では、時間が限られておりますけれども、私個人の意見で、座長としての意見ということでお話をさせていただいたら、一つは、まず、中学2年生、3年生のアンケートの内容を見ると、答えられるのだろうかというふうな疑問があるかと思いますが、私は中学生を信じて実施したいなと思っています。この懇話会自体が中学生の期待に応えるというふうなことに相当程度重視してきたという部分もあります。そのことを踏まえまして、結果はどうか分かりませんが、今の中学生がどういったことを考えているのかというふうなことを幅広く意見として聴取するという方法が、せつかくの機会ですので、当然負担感ということがあります。これはただのアンケート調査ではなく、まさにGIGAスクール構想を踏まえ、タブレットを活用しながら答えていただくという機会になればという、ちょっと都合のいい考え方もありませんけれども、思っております。

また、先ほど安曇野市教育長からありましたけれども、もし対面でというふうなことのご

要望があれば、私のほうでよければ、それぞれの地区の中学生に意見を対面でお伺いするというふうな機会を設けて、それぞれ質的にも量的にもご意見を頂戴するというふうな方法をとらせていただけたらというふうに今感じておりますので、この中学生の部分については、とらないという選択ではなく、実施してみるという方向で是非ご検討いただけたらなというふうに思っていますけれども、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

○座長 よろしいでしょうか、ありがとうございます。

では、皆さんご了解いただいたというふうなことで……

○安曇野市長 ちょっといいですか。方向としてはそれでアンケートをとるということですが、これはアンケートの内容を見ると、あなたの性別を教えてくださいというのがありますね。今、男女共同参画が言われて差別は撤廃していくというような、一人も取り残さないという方向でいっているにもかかわらず、ここで男性か女性かを問う必要はあるのでしょうか。

○座長 ありがとうございます。

これは非常に難しい点でして、おっしゃるとおりの部分があるかと思うんですけれども、後々の分析上、ここの性差による違いというものが出るかという部分も分析上重要な部分になってくるかなと思うんです。男子校、女子校というふうな区切りは古くからありますけれども、その辺りを含め、性差に基づく違いがあるのかどうかというふうなことを確認するために設けさせていただけたらということで、実は私のほうでもろもろ総合的に判断した結果、入れていただけたらというふうなことを提案させていただきました。ただ、県のほうでは当初、今、市長のほうでご発言いただいたように、LGBTも含めて様々な多様な性ということ認めていくというふうなことから、入れなくていいのではないかというご意見も現実としてありました。

この辺りはそれぞれの価値観だとか、分析上の部分になってきますので、何とも言えないところがあるわけですが、皆様方いかがでしょうか。

では、よろしく申し上げます。

○地域振興局長 松本地域振興局の草間ですが、項目として設けてあったほうが、注意書きでチェックをしたくなければしないという形は明記する形になればいいのではないのでしょうか。

○座長 ありがとうございます。

そうですね、では、男性、女性の他に、その他という形で、その他といいますか、注意書きを書くとともに、その他の部分のもう1項目を設けまして、回答しないで済むというこ

とも第3の軸として設けるといふ形によろしいでしょうか。

ここの議論をすると、本当に様々な性志向の部分を含めてすさまじい数の選択肢になりますし、まさにLGBTQのQの部分には何とも答えられないというような場合がありますので、ではその辺り、過去の知見を踏まえて対応したいと思っております。

ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、またこの内容に関しましてお目通しいただいて、ご意見等あれば、事務局のほうまでいただけたらと思っております。

時間が超過してしまって、申し訳ありません。

では、(5)のその他の部分になります。

次回の日程に関しましては、現在調整中であります。先ほどアンケート調査も含めて、あるいは今現状で合同部会のほうで走っておりますので、その報告を受ける形で5月末から6月の初旬くらいにかけて実施できればというふうなことを思っております。

続いて、構成員のメンバーの変更に関しての話になります。

次回の懇話会は年度の切り替えというふうなことで、それぞれのお立場が変わる場合がありますけれども、可能な限り、現在の構成員のほうでというふうなことを事務局のほうとしては考えています。

これに関しましては、旧第11通学区の、こちらの懇話会のみならず、12の通学区の協議会とも合意済みであるというふうなことをご了解いただけたらと思っております。長の事情がある場合には事務局のほうにご相談いただけたらというふうに思います。

以上をもちまして、時間を超過して申し訳ありませんでしたけれども、本日予定しておりました議事は終了ということになります。

ただいま皆様方からご発言いただいた内容につきましては、また事務局のほうで取りまとめさせていただいて、次回ご提案したいというふうに思っております。

最後に、ご報告がありましたけれども、副座長の赤羽教育長が今月をもちましてご退任ということで、一言挨拶を。

○松本市教育長 今月末をもちまして退任ということで、皆様方には大変お世話になりました。本当にこの第11通学区が魅力ある地域になりますように、是非皆様の今後のご議論、また検討をよろしくお願ひしたいと思ひます。

どうもありがとうございました。お世話になりました。

○座長 それでは、以上で議事進行のほう、ご協力いただきありがとうございました。終わりにさせていただきますと思います。

では、事務局のほうにお返しいたします。ありがとうございました。

○司会 荒井先生には議事を進行していただきまして、誠にありがとうございました。

◎閉 会

○司会 以上をもちまして、旧第11通学区高等学校教育懇話会第3回会議を終了とさせていただきます。

本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございました。